



NPO 法人ワンニャン会
会報 14 号

ワンニャン会のお引越し

中本 宜子

18年の春、宝来町でお借りしていたボランティアルームを四月いっぱい撤去する事となりました。二年あまり本当にお世話になりました。

今まで自宅で何とかやっていましたが、事務所が出来てどれだけ助かったか！で、新しい事務所探しに取り掛かったところ、早速声をかけて下さったのがKさん。自分の借りている部屋を使っていいと申し出て下さったんです。

新しい事務所が見つからなければ、しばらく使わせていただく予定で引き続きお部屋探し。その前に、Mさんの紹介でバザーの商品を置かせていただいていたSさんの倉庫も取り壊しになるので、片付け、お掃除、荷物は取り敢えず宝来町の空きスペースに置かせて貰いました。山の様なバザーの商品、積み上げられたケース、、、。20年間のワンニャン会の書類など、これら全部のお引越し、、、。

うーん、大丈夫か？と思っていたら続きの二部屋貸してあげるというお話が、、。今は使っていないけど、前の住人の荷物が残っていて近々取りに来るというお話。手伝いました、荷物をまとめてゴミ出し、掃除までやって後数日で引越し、と言う所まで来て、突然大家さんからの条件が変わりました。えー？どうする？と、あたふたしていたら天の助け！ボランティアスタッフの友人のMさんが文里の一軒家を貸してくれる！！おまけにニャンコ、ワンコ出入りOK、飛びつきました！本当にそれでいいのか？と思うくらいの超破格の条件！

ニャンコ、ワンコの神様が助けてくれたのか？と思いながら4月末にお引越し。

2018年の春から夏にかけてひたすら、片付け、掃除を繰り返した日々でした。野良猫の手術は待たなしなので、その間もアタフタと不妊手術は続きます。ようやく、片付いて来てスタッフも可愛いカーテンを付けてくれたり、家から色々持ってきて落ち着けるお部屋に工夫したりする毎日です。

ここに来てから又新たな試みもスタートしているワンニャン会です。本当に良いところに引越しできてラッキーです！日曜日の午後は一時から四時まで大体誰かいますので是非遊びに来て下さいね！！！！



ワンニャン会の皆様との歩み(いち公務員として)

坂田 貫

中本理事長をはじめ、ワンニャン会の皆様にはいつも大変御世話になっております。大変恐縮ですが、執筆のご依頼を頂きましたので、寄稿させていただきます。今から16年前、私が県職員になって初めての赴任先が田辺保健所でした。私の主な業務は、食中毒調査や飲食店の営業許可などの食品衛生に関することと、動物の苦情対応や野犬の保護、保健所に持ち込まれる猫の引き取りなどでした。当時は、持ち込まれた猫を、窓口で淡々と引き取る日々で、獣医師の資格を持ちながら、何もできない自分を情けなく思っていました。

そんなある日、小学校の先生から「わうくらす」をやって欲しいとの依頼を頂きました。命の大切さや動物を飼う心構えなどを小学生に教える機会を頂き、動物行政のなかでは初めてやり甲斐を感じられた仕事でした。そして、そこでボランティアとしてご協力頂いたのが中本さんと多田さんでした。「わうくらす」では犬の心音を聞かせる授業などが組み込まれており、ボランティアのご協力がなければできないものです。両氏の存在がなければ「わうくらす」ができなかった可能性もあり、公務員の限界と民間の方々との協働の重要性を実感できた良い機会となりました。それ以来、私は貴会に様々なご協力をいただいています。わうくらす以外では、県営住宅の猫問題や犬の多頭飼養問題など、行政だけでは解決できなかったことにもご協力いただき、解決することができました。更に今では多くの貴会の会員様に「動物愛護推進員」となっただき、和歌山県の動物愛護を牽引いただいております。

さて、私が田辺保健所にいた頃の県の殺処分数は、犬が2,000頭/年、猫が4,000匹/年もありました。しかし、今では犬の処分数は1/20にまで減少しました。一方、猫については残念ながら近まで横ばい状態が続いていました。このような状況の中、県では、平成28年度から、殺処分される猫をなくすために「不幸な猫をなくすプロジェクト」に取り組んでいます。このプロジェクトでは、地域猫対策への支援や譲渡の推進、マッチングサイトの開設などを行っています。

おかげさまで、多くの方々が地域猫対策に取り組まれ、H31年1月末現在で、保健所が認定した地域数は216地域、地域猫数1,654匹、手術済数1,208匹となりました。

特に貴会のホームグラウンドである田辺・西牟婁地域では多くの地域で取り組んでいただいています。更に、近では他の地域においても地域猫対策の輪が広がり始めています。例えば、有田地域では、県の支



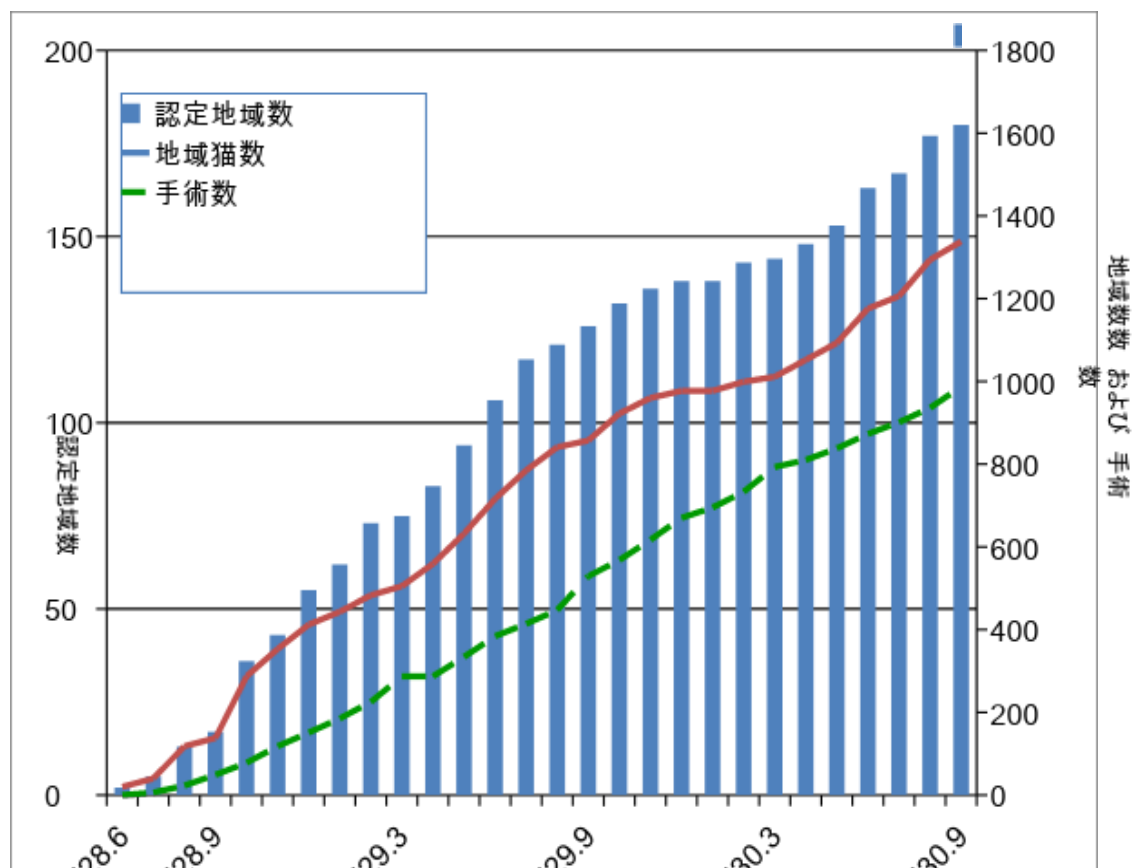
援を発端に、地域猫対策に取り組まれる方が増え、広川町の広報誌(2018年12月号・地域猫が特集されました)の発刊もあり、飛躍的に取り組まれる地域が増えていきます。この有田地域の取り組みについても、貴会からのご助言やサポートがあったと、湯浅保健所や町役場の担当者から伺っております。

平成31年1月末現在

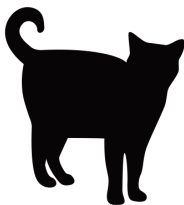
認定地域数:216地域

地域猫数:1,654匹

手術数:1,208匹



地域猫対策の推移



また、貴会をはじめとするボランティアの皆様のご協力により譲渡数も増えていきます。このプロジェクトにより少しずつ成果が見え始めています。（ただし、H30年度の猫の殺処分数は約1,600匹とまだまだ道半ばな状況です。）

今、私の重要ミッションは殺処分数を減らすことです。そのためにも地域猫対策を普及啓発するための予算を確保しながら、より多くの地域で取り組んでいただけるよう保健所の担当者と連携して、対応しています。お願いばかりで申し訳ございませんが、貴会の皆様には、引き続き、地域猫対策に取り組んで頂くとともに、野良猫がいる地域の方々へ「今なら県からの支援があるよ！」と伝えて頂ければ幸いです。動物愛護行政と一言と言っても、動物に関する施策は広範かつ多岐にわたっています。野良猫対策の他にも、災害対策や多頭飼育問題など様々な課題が山積しています。そして、施策を進めるためには知識や経験、技術が必要であり、公務員だけではスムーズに運ばないこともあります。私をはじめ保健所職員も、それぞれ一所懸命、業務に取り組んでいますが、まだまだ至らないこともあると思いますので、変わらぬご協力をお願いします。追伸

この文章は、坂田個人で作成したものです。つたない文章で申し訳ございませんが、貴会に伝えたいことは「いつもありがとうございます」と「今後ともご協力お願いします」です。特に、私は、県職員になってから、田辺保健所の時はもちろん、違う職場に異動した時も、ず～～～っと、貴会に助けてもらってばかりです。一方で、私はまだ何も恩返しができていません。「いつか必ず！」そう思いながら、いち公務員として、今後も頑張っていきますので、よろしくお願いします。

動物と生きる未来の風景

さくら・マミー・茶々のママ

私の名前は、マトリカリア・マミー。名前をつけてくれたのは今のママ。生まれたのは2016年の春頃。のどかな街で外猫として暮らしていたの。ご飯をくれる人もいたの。でもね、ご飯をくれるなら不妊去勢手術をしないとイケないよね。当然私は赤ちゃんを産んだわ。赤ちゃんを産んだ頃から、ご飯をくれていた人の様子が変わったの。私と赤ちゃんが邪魔になったみたい。私たちは保健所に連れていかれそうだったけど、うちにおいでって言うてくれる人がいて、小さなキャリーに初めて入って、車にも初めて乗せられて、怖かったけど新しいお家にやってきたの。手術もしてくれたの。これでもう、一生懸命産んだ子供が死んでしまったりしないで済むと思ったわ。

お外で生きていくのは本当に厳しくてつらい事がたくさんあったの。もう安心って思ったけど、試練が待っていたわ。私達親子はウイルスに感染していたの。とても怖かったわ。この病気は恐ろしいけど、ワクチンさえ打っていれば大丈夫なんだって。それだけで助かるのに、ワクチンを打ってもらっていない私と私の子供達。子供は2匹も死んでしまった。私も入院したの。その頃はまだ人間が信用できずに誰にも触らせなかったわ。

辛くて怖いことしか無かったから、精一杯抵抗していたの。

外で生きる猫の寿命は平均3年から5年。病気になっても、私のように治療はしてもらえない。病気や交通事故や寒さで死んでしまうの。外では暮らしていけない。人間のそばで一緒に生きたい。私はそう思ったの。猫達みんながそう思ってはダメですか？退院してから私は、同じ病気との戦いから回復した息子のカンパニユラ・茶々と今のお家にいるの。もうお外には出られなくなったけど平気。お家の中で走ったり、高い棚に登ったりして遊べるし、窓からお外も見られる。この家には犬もいるけど仲良くしているわ。



時々一時預かりの猫って子も来るけど、そんな子の面倒は茶々に任せてあるの。茶々は不安にしている子猫に寄り添って、毛づくろいしてあげたり添い寝してあげているわ。幸せになろうねって。

もちろん私もみんな幸せになるようにって思っているわ。今でも亡くなったマミーの子供たちの事を考えると鼻の奥がツンとします。

私が支えにしている文章の1つを紹介します。2016年動物と人との未来を考えるサミットよりアメリカ、アニマルポリスの当時の巡査部長と裁判官の方からのメッセージです。

「自分たちもたくさんひどい事をしてきました。でも人々はみんなで悩み、考え、話し合い、長い長い時間をかけてやっとここまで来ました。まだまだ課題もあり道半ばです。

必要なのは一部の人だけでなく、みんなの協力です。みんな動物の声を聴いて発信していくこと。そして行政をしっかり監視していくこと。行政はきちんと働くこと。時には大きい声で怒鳴って下さい。」

地域猫のお話

中本宣子

和歌山県の地域猫の支援事業が始まって3年。ワンニャン会は紀南地方で20箇所をこす地域でこの事業のサポートをしています。税金で、手術代金を全額助成してもらえる、、、一昔前なら夢のような話です。なので全力で取り組んでいます。田辺市の事業、飼い主のいない猫の不妊手術事業も合わせて年間で200匹をこす不妊手術をしたときは、何が何だか分からないくらいの忙しさでした。次の年、春に猫の処分数減ったかなあ、、と数を聞いてちょっと、がっくり。微減、、、でも、NPO法人「ねこだすけ」の工藤さんによると地域猫を初めて緩やかに減ってある時、がくと減って又緩やかに減って、、となるというのでめげずに、頑張っています。

ここ数年、イベント「ねこのわ」を境にボランティアさんが増えてきました。今までは、本当にいつものメンバーで黙々とバザーやって手術して、、を繰り返してきましたが手伝ってくれる人が増えて、捕獲なども一回で10匹近く出来るようになっていきます。

不妊手術が済んだ地域では数年で猫の数は激減します。外で生きる猫の環境の厳しさを目の当たりにする事実です。家の中の一番暖かな場所でヌクヌクとしている飼い猫と違って、雨風を防ぐ手立てもなくノミ、ダニ等が付き餌をもらえとはいえ、野生動物に襲われる危険もある、常に神経を尖らせている外の子は感染症にかかったら、あっという間に命を落とします。ここ数年、相談を受けて地域猫を申請し手術の搬送などを協力して、、とやっていく中で一番、胸が痛かったこと。人懐こい子を捕まえて手術し、元いた場所に放すとき又この子を捨てている、、何もしてやれない自分がいる、、、猫に心の中で謝りながらケージの扉を開けるのは本当に辛かったです。今、新たなボランティアルームで試験的に地域猫の場所での人懐こい子を保護して新たな飼主さんを探す試みを始めました。この先どのような形で変化していくかわかりませんが地域猫、飼い猫の不妊手術のよって緩やかに減っていくことが猫の嫌いな方、困っている方にも広く知っていただけたらなあと思います。

事業報告

※田辺市 飼い主のいない猫の不妊手術事業

※和歌山県地域猫対策支援事業

※飼い主のいない猫の不妊、去勢手術事業

※犬と猫の譲渡,飼い方相談

※ドッグラン『リン』運営

2017年度活動内容

- 4月17日 福祉総合イベント『ねこのわ』 開催
- 5月13日 田辺市商工祭 犬のふれあい活動
- 5月28日 田辺市カトリック教会 バザー
- 6月11日 イオン イエローレシートキャンペーン、ビラ配り
- 6月18日 田辺市立戸町内会、自主防災会にてペットの同行避難講演
- 7月16日 西牟婁振興局 猫の譲渡会
- 7月31日 ドッグラン『リン』プール開催
田辺市万呂コミュニティセンター 異業種交流会参加
- 8月3日 FM田辺 ラジオ出演
- 8月8日 田辺市商店街振興組合連合会主催 ヤーヤー祭り バザー参加
- 8月10日 和歌山県動物愛護センター主催『ワウクラス』参加
- 8月19日 田辺市文里夏祭り バザー参加
- 8月26日 ドッグラン『リン』プール開催
- 9月9日 田辺市駅前商店街アオイ通り朝市 バザー
- 9月10日 紀南文化会館 市民活動まつりにてバザー
- 9月23日 日高郡みなべ町 介護施設イクル 納涼祭にて犬のふれあいとバザー
- 10月22日 田辺市カトリック教会 商品売りつくし 10円バザー
- 10月28日 田辺市 カトリック協会 商品売りつくし 10円バザー
- 11月3日 近野丸かじり実行委員会主催 バザー
- 11月12日 田辺市農林水産祭り バザー
- 1月26日 西牟婁振興局 和歌山県動物愛護センター譲渡会参加
- 2月17日 田辺市文里ガーデンホテルハナヨ田辺市ふれあい文化祭バザー

和歌山県地域猫対策への支援協力数不妊手術数 132 匹

田辺市 飼い主のいない猫への不妊去勢手術補助事業による不妊手術数 68 匹

ワンニャン会野良猫の不妊手術補助 51 匹



「紀州ネコ砂」のご紹介

「紀州ネコ砂」とは田辺市龍神村、土木会社経営の川口さんが地元産のスギ・ヒノキの間伐材で作ったネコのトイレ材の商品名です。

地元間伐材を使用することで、山の手入れや雇用の促進にもつながればという思いも込めて作られました。この「紀州ネコ砂」の開発にはワンニャン会も協力し、年初より一般モニターを募りアンケート調査も行ってきました。その中の意見でも評判は上々で、特に抜群の消臭効果に驚かされたという声が多く、清潔感のある木の香りがし今まではどうしても取りきれなかったトイレの匂いがほとんど気にならなくなった、ということでした。価格的にもリーズナブルで、燃えるゴミとして処分出来る事も魅力の一つです。

今回この「紀州ネコ砂」の販売を、KWカンパニーさんが窓口になり、始めることになりました。

売上金（経費控除）はワンニャン会に寄付されます。システムトイレ（すのこ式トイレ）用の商品の為、これを機にシステムトイレにチャレンジしてみようという方には、ワンニャン会からお試しのトイレの貸し出しも行っています。

「紀州ネコ砂」の詳細は下記の通りです。手入れも楽でリーズナブルな「紀州ネコ砂」をこの機会に試してみませ

～紀州ネコ砂～

紀州間伐木材 杉・ヒノキ 100パーセント使用・龍神産

容量 2.5 リットル (1.4 キロ) ※袋持参量り売りの場合 1 キロ/400 円

価格 600 円 税込み

使用方法 ・ネコ1頭につき 1.5 リットルで約一か月の使用が目安です。・

ウンチは毎日スコップなどで取り除いてください。

・交換は1か月に一度、全入替えしてください。

(使用状態によって補充しながらご使用ください)

・使用後は燃えるゴミとして処分出来ます。

※今後内容量と価格は変わることがあります。

ご使用の砂から切り替える際は・・・

抵抗なく使用することも多いですが、よりスムーズに移行させる為に次の方法をお試しく下さい。ネコのウンチを新しいトイレに入れ、自分のトイレという事を分かりやすくする。今までのトイレのそばに置いておきしばらくは併用する。

主な活動内容

- ・犬、猫の不妊手術の啓発推進活動
- ・犬、猫の不妊手術のサポート活動
- ・行き場のない犬、猫の飼い主探しの仲介
- ・子供の健全育成を育む活動
- ・犬、猫の育て方、しつけ相談
- ・地域社会での交流の場の提供
- ・CAPP活動(各種施設での人と動物とのふれあい、訪問活動)

不用品提供のお願い

未使用切手、はがき、洗剤、古タオル、キャットフード、ドッグフード

浴衣や風呂敷などの木綿の布地

そのほか、バザー用品(衣類は、未着用のものに限ります) このような不用品がありましたら、ぜひご提供をお願い申し上げます。

ボランティア募集中

ボランティアスタッフ、イベントボランティアを募集しております。

ボランティアスタッフは日常業務(動物の搬送、捕獲檻の設置回収、書類作成等)をはじめ、ワンニャン会の運営にかかわる活動です。

イベントボランティアは、バザーやふれあい活動、訪問活動、しつけ教室などのイベントのお手伝いをお願いしております。

無理のない範囲で参加して頂けますので、ボランティア活動に興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

寄付のお願い

ワンニャン会の活動は、皆様の寄付によって支えられております。

賛助会員の募集もお願いしております。ご不明な点などありましたら、お問い合わせください。

賛助会員年会費

・賛助会員 3000円

・団体賛助会員 10000円

振込先

郵便振替 口座番号 01080-7-36215

ワンニャン会 代表 中本宣子



	会 報	
	第14号	

2019 03

NPO 法人ワンニャン会